

2017年1月15日

中国・ベトナムの漢文文献の中の南シナ海方面の記述について 補遺 24

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

補遺 16 及び補遺 21 の補足である。

Trần Đức Anh Sơn は、19 世紀以前の欧米の諸文献の中のパラセル諸島の記述を博搜したきわめて重要かつ有益な労作をものしている[Trần 2014]。この論文を読み返して、1807 年の Ross と Maughan のパラセル調査について大変重要な情報が残されていることに気づいたので、ここに紹介し、先に述べた自説の補強・拡張を試みたい。

Ross と Maughan の調査によって、パラセル諸島に関する正確な知識が獲得され、地図上のパラセル諸島の描写が現実離れしたものから現実に即したものに变化したことは先に述べたとおりであるが、そのことは同時代のイギリス以外の各国の海洋関係者も明確に認識していた。アメリカ海軍大尉 John White は、1823 年に刊行した著作で次のように述べている。

The Paracels, just mentioned, were formerly, and indeed till very recently, dreaded by navigators, being represented as one continued chain of low islands, coral reefs, and sand banks, extending from the latitude of 12° to that of 17° north, in a north-north-east and south-south-west direction, forming a fancied resemblance to the human foot, (the toe of which was the southernmost extremity) and approaching to within about sixteen leagues of the coast of Cochin China; in its widest part, in the latitude of about 16° north, it was represented as about thirty leagues over. This archipelago, once so formidable, from its great imaginary extent, and terrific character, is now ascertained to be a group of islands and reefs, of no great extent, with good and safe channels between most of them, and in many places good anchorage. They lie between the latitudes of $15^{\circ} 46'$ and $17^{\circ} 6'$ north; and from longitude $111^{\circ} 12' 1-2'$ to $112^{\circ} 42'$ east.

Early in the morning of the 25th, we passed over an azure and fathomless sea, where, in the old charts, are marked rocks and shoals in great profusion, The recent investigations, discoveries, and surveys in these seas, by Lieutenants Ross and Maughan, of the Bombay marine, in the surveying ships, Discovery and Investigator, have been productive of correct charts and useful information, by which this navigation has been rendered much less arduous and

dangerous.

John White. 1823. *History of a Voyage to the China Sea*. Boston.pp.95-96

1820年代には、新しいパラセル諸島に関する知識は、南シナ海の欧米海洋関係者の常識となっていた。中国王朝はともその動きを察知していないようである。

一方、ベトナムにこの調査隊が寄港していることが次の資料から知られる。長く海外を旅しインドで新聞発行にも携わった James Silk Buckingham が帰国後ロンドンで植民地情報を提供するために 1824 年に創刊した *The Oriental Herald and Colonial Review* の第一巻で、インド政庁とシャムとコーチシナの関係について記述しているが、そのなかに次の一節がある。

In 1807, Lieutenant Ross was sent to the coast of Cochin China, to survey the Paracells, and instructed with a friendly letter to the King, but experienced the most inhospitable treatment.

“Selections from Indian and Colonial Journals: Mission to the Cochin China”
The Oriental Herald and Colonial Review. Volume 1. January to April, 1824.London. p330.

まず、この記事はインド政庁側がパラセル諸島調査の問題をベトナム（コーチシナ）沿岸の問題と捉えていることを示しているだろう。また、この記事は、パラセル諸島調査に派遣された Ross が、まずコーチシナの王、すなわち阮朝皇帝嘉隆帝宛ての友好的な書簡をもって接触を試みたが、最悪の応対をされたと伝えている。この記事の前段には、阮朝皇帝側近のフランス人やポルトガル人の悪影響で通商交渉がうまく行かないのだと記されている。実際、阮朝側の資料である『大南寔録』では、イギリス人の評価は低い（「狡而詐」「化外狡商」）。

『大南寔録正編第一紀』巻 33:6b-7a では、この年にベトナムに来たイギリス船は「商船」と記されており、実に狡猾な商売の交渉をしたように記されている。交渉の仲介をしたのはベトナム在住のシェニョーやヴァニエといったフランス人たちであり、彼らが悪口を吹き込んだのかもしれない。このように阮朝側の資料（ただし公文書などの一次資料の記録の要約抜粋にすぎない）からは、阮朝がイギリスのパラセル調査のことを認識していたことは窺えない（年代記の編纂者がイギリスのパラセル関与を隠蔽しようとした可能性も考えられよう）。このあとの阮朝のパラセル諸島への積極的な関与の動き（1815 年と 1816 年にパラセル諸島に調査隊派遣、1817 年にマカオからパラセルの地図を入手）を考えると、この時点でイギリスの船がパラセル調査に向かうことを認識していたと想定するほうが自然なように思える。1810 年代前半の海図にパラセル諸島に関する新しい正確な知識が盛り込まれていることは既に述べたとおりであるが、阮朝が Ross 艦隊の寄港以後、南シナ海の新動向に注意を払っていたために、パラセル諸島に関する正確な知識が南シナ海の航海者に広まっ

てゆく動きを見逃さず察知し、自らもそれにすばやく対応できたということではなかろうか。

そして逆にイギリス側はパラセル諸島調査をベトナム沿海部の問題と考えて、ベトナムの動向に注意を払い続けていたようである。1821年にインド政庁がラタナコーシン朝と阮朝に派遣した使節の代表である John Crawford は、パラセル諸島について次のように述べている。

In the China Seas, the only considerable islands belonging to Cochin China, are Pulo Con-dore, Pulo Can-ton, correctly Col-lao Ray, and Cham-col-lao, properly Col-lao Cham. All that I know of these has been already given in the Journal. Besides these, the King of Cochin China, in 1816, took possession of the uninhabited and dangerous archipelago of rocks, islets, and sand-banks, called the Paracels, which he claims as part of his dominions, and over which his authority is not likely to be disputed.

John Crawford. 1830. *Journal of an Embassy from the Governor-general of India to the Courts of Siam and Cochin China*. 2ed. Volume II. London. pp.243-244.

イギリス側は 1816 年の阮朝のパラセル調査について情報を得ており、それを阮朝による主権の確立とみなしている。ベトナムで布教活動に従事しベトナムに造詣の深い Taberd がこの認定を支持しているのを初めとして、その後の 19 世紀中葉までの欧米の複数の文献がこの見解を踏襲していることは[Trần 2014]が論じているとおりである。

Trần Đức Anh Sơn. 2014. “Thư tịch và bản đồ cổ phương Tây chứng minh chủ quyền của Việt Nam đối với hai quần đảo Hoàng Sa và Trường Sa.” Trần Đức Anh Sơn ed. HOÀNG SA TRƯỜNG SA TƯ LIỆU VÀ QUAN ĐIỂM CỦA HỌC GIẢ QUỐC TẾ. Hà Nội: Nhà Xuất bản Hội Nhà văn.